

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	令和4年度 第1回 姫路市水道ビジョン推進会議
2 開催日時	令和4年8月24日（水曜日） 13時30分～15時40分
3 開催場所	市役所 防災センター5階 災害対策本部会議室
4 出席者又は欠席者名	(出席者) 構成員8名 (事務局) 上下水道事業管理者、上下水道局次長、経営管理部長他 上下水道局職員12名
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴不可、傍聴人0名
6 議題又は案件及び結論等	1 開会 2 説明・意見交換 3 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙2のとおり

水道ビジョン推進会議 構成員名簿

(順不同、敬称略)

	氏 名	所属及び役職名
学識経験者	瓦 田 太 賀 四	兵庫県立大学 名誉教授
	山 野 一 弥	公益社団法人 日本水道協会 大阪支所 支所長
	足 立 泰 美	甲南大学経済学部 教授
水道使用者の代表者	利 根 康 広	姫路市連合自治会 副会長
	岩 田 稔 恵	姫路市連合婦人会 会長
	西 井 健 滋	姫路商工会議所 事務局次長 兼 総務部長
	長 谷 川 恒 子	公募市民
	井 原 修 一 郎	公募市民

開会（13：30）

1 説明（事務局） 資料1～5

2 意見交換

座長

只今の事務局の説明に対して、ご意見ご質問をいただきたい。

構成員

まず1点目、資料3の施策6（2）鉛製給水管の解消について、事前質問の回答において鉛製給水管の解消計画を見直すという説明があったが、ビジョンの目標である令和15年度に鉛製給水管率を0にする計画を、どのように見直すのか。後ろ倒しにするのか。

2点目は資料3の施策2（2）老朽管路更新の推進について、事前質問の回答において繰越となった工事の管路布設替延長は6.4kmで、そのうち材料の出荷停止が原因の延長は1.1kmとの説明があったが、主な繰越の原因は何なのか。このままでは毎年繰越による積み残しが発生するので、根本的な原因とそれに対して局としてどう対応していくのかを教えてください。

事務局

現在の鉛製給水管の解消計画は、平成28～29年度にかけて実施した調査結果に基づく鉛製給水管件数を目標年度である令和15年度に0となるよう解消件数を年度ごとに平準化したものであり、局の工事として対応できる件数について調査結果の内容を再度精査し、実現可能な解消計画となるよう見直したい。

令和2年度との比較になるが、繰越工事の主な要因については、設計業務に携わる人員の減およびベテラン職員の異動により、設計業務の進捗スピードが低下したことが考えられる。管路DBや単価契約などを検討していたが、関係部署との調整に時間を要しており、導入には至っていない。より一層の債務負担行為の活用と年度当初にすぐ工事発注できるよう年度末から設計に着手すること等により、積み残しを減らしていきたい。

構成員

水道ビジョンは令和2年度からスタートしている。それ以前に鉛管の解消計画を策定しているにもかかわらず、なぜ毎年度目標を達成できていないのか。具体的な解決策を示さずに、簡単に計画を後ろ倒しにするのは適切とは言えない。いくら案内しても取り替えてもらえない箇所は対象件数から除外するのも一つの方法だと思う。局としてどう対応していくのかを考えてもらいたい。

過去の水道ビジョン推進会議で、「人は減らすが、管路更新率は上げていく」という計画に対して、具体的にどのようにしていくのかと尋ねた際には、「技術職を増やし、技能労務職を減らします。全体の職員数は減らします。」との説明を受けてきた。今の段階でマンパワーが足りないと言うのであれば、なぜ水道ビジョン策定時にその点を考慮しなかったのか。事務局が説明した対応で十分かは分からないが、取組の内容と

成果について、今後の会議でご報告いただきたい。

座長

現在の状況では、工事の繰越については新型コロナの影響も一定程度あるのではないかと考えられる。しかし、人手が不足しているから目標に到達しなかったというのは理由にならない。しっかりと原因について分析し、対策をしてもらう必要がある。

構成員

甲山浄水場更新事業について、価格面で折り合いがつかず、参加者辞退により入札が不調になったと説明があったが、今後事業を進めていくにあたってどのような対策を講じていくのか。

事務局

甲山浄水場更新事業については、新浄水場の更新・維持管理をしていくうえで想定されるリスクについて、市と民間事業者のどちらがリスクを負うのかを明確にしていくことで、民間事業者と価格面で折り合えるようにしていきたいと考えている。

構成員

繰越工事の主な要因について、単価契約や管路DBが導入できていないからという説明があったが、管路DBについては既に他都市での事例がいくらかもあるが、なぜ姫路市はすぐに導入できないのか。

事務局

管路DBについては、姫路市としては初めての手法であり、慎重に検討している。

構成員

料金体系の見直しについて、今回提示している案において収入総額が変わらないという説明があったが、水道料金の負担が増えると使用量が減る可能性が考えられるが、その点も踏まえてシミュレーションしているのか。

事務局

令和2年度の収入総額と変わらないという前提でシミュレーションしているが、水道使用量の減少については折り込んでいない。今回の資料でお示しした体系の見直し案は最終案ではなく、あくまで頭出しで作成したものであり、今後これらの案を出発点として、より良い料金体系の検討を進めていきたいと考えている

構成員

水道料金以外の収入の確保については検討したことはあるのか。

事務局

平成28年度に水道の使用開始時に負担いただく開栓手数料を新たに導入した実績がある。

構成員

各公共機関、積極的にYouTubeを広報活動に利用しており、中には広告収入を得ている地方自治体もある。市民への情報発信の強化について取り組みの説明があったが、検索サイトで水道と検索した場合、姫路市の水道の情報がすぐに出てくると言うとおそらく出てこないと思われる。情報を欲しい人が、姫路市のホームページを検索し、特定のページまでアクセスしなければならない。これでは十分な情報発信ができていないとは言えないのでは。

座長

新たな収入の確保については、水道事業は他の公営企業と比べて難しいかもしれないが、市民への情報発信とあわせてぜひ検討していただきたい。

構成員

姫路市の水道料金は、全国的に何番目なのか、他都市と比べて高いのか安いのかを教えてください。

事務局

口径20mmで1ヶ月に20m³使用した場合であれば、中核市59市中高い方から30番目（安い方から29番目）で、平均よりは未だ安い水準となっている。

（参考）口径20mmで1ヶ月に10m³使用時の料金は、高い方から44番目（安い方から16番目）

構成員

事業者の立場で見ると、今の料金体系は約 50 年前に作られたもので、事業者に負担を多く求めるいびつなものであると認識している。この料金体系が作られた時代にはなかった特別養護老人ホームや介護施設などの新しい業態が存在している。口径 40mm で 300 m³の水を使用しているこれらの施設の利用者が、施設でお風呂に入った場合と自宅でお風呂に入った場合とではかかる水道料金に 2 倍の差があるが、この差は一体何なのか。大口径である事業者が多くを負担しているということではないか。公平な料金体系にぜひ見直していただきたい。

座長

水道事業は安心して安全な水を供給し続けなければならない。水が止まってもいいからコストを抑えたいというのであれば話は簡単だが、そうはいかない。水道事業の費用は使用者の料金をもって賄う必要があり、応益負担の考え方から言えば、現在の料金体系は公平ではないと言える。経営状況に余裕がある状況のうちに、公平かつ適正な料金体系を検討する必要がある。今回は事務局より新しい料金体系案を示していただいたが、まだまだ市民への影響などを踏まえてこれから検討していただく必要がある。今後も皆さんにはご意見を積極的にご発言いただきたい。

3 閉会 (15 : 40)